

1 がん医療 (1)がん医療の提供
①がん診療体制の充実

■「がん医療の提供」の目指す姿■(第2期計画策定時に設定した目指す姿)
○がん患者が、県内の医療機関で、より質の高いがん医療を受けることができる。
○上記の目標を達成するため、手術療法・放射線療法・化学療法とのさらなる充実とそれを実践できる効果的なチーム医療体制整備が進んでいる。

分野別施策進捗状況点検シート
1 がん医療 (1)がん医療の提供
①がん診療体制の充実

○目標のために取り組んだこと(個別施策)の進捗状況

●は中間評価の時点で追加した指標

主な取組	実 績			個別施策の指標	参考値または <計画策定時基準値>	計画策定 時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典 No.)	
	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予定含む)							
新泉立奈良病院(奈良県総合医療センター)の整備	・新泉立奈良病院の計画内容の公表(H26.2)	・新泉立奈良総合医療センター建設(H27.3~H29.12) [奈良県立病院機構]	→	新泉立奈良総合医療センターの整備	-	H28度中に開院	H29開院予定	目標達成予定	-	
南和の救急病院(急性期)の整備	・救急病院(急性期)の整備 [南和広域医療組合]	・救急病院(南奈良総合医療センター)建設着工(H26.4~H28.3) [南和広域医療組合]	→	南和の救急病院(急性期)の整備	-	H27度中に開院	H28開院予定	目標達成予定	-	
県内におけるがん診療体制の検討、地域がん診療連携支援病院のあり方や指定要件についての検討	・がん診療連携推進事業として拠点病院へ補助(奈良医大付属病院・奈良県総合医療センター・天理よろず相談所病院・近大奈良病院・市立奈良病院) ・地域がん診療支援病院指定要件の検討 支援病院: 国保中央病院 ・県立医科大学付属病院 新病棟(E病棟)の一部開設(放射線部門・腫瘍センター)	・拠点病院新指針による診療体制の強化 ・支援病院要件変更により2カ所追加(済生会中和病院・大和高田市立病院) ・県立医科大学付属病院 新病棟の建設継続(中央手術部・患者サロン他 H28.3) ・大和高田市立病院放射線治療センター整備 [大和高田市] (H26~H27)	→ → → →	●地域がん診療連携支援病院の増加	1カ所(H24)	-	3カ所(H27)	増加	-	
チーム医療体制の整備、放射線治療や化学療法に携わる専門的な医療従事者の適正配置と育成及び専門性の醸成	・国立がん研究センター研修への参加 [全拠点病院]			悪性腫瘍手術の実施件数(人口10万対(1ヶ月分))	<29.5件>(H23)	増加	34.0件(H25)	増加	(10)	
		・チーム医療体制整備(拠点病院新指針要件 H26) [全拠点病院]	→	放射線治療(対外照射)の実施件数(人口10万対(1ヶ月分))	<163.6件>(H23)	増加	242.8件(H26)	増加	(10)	
		・化学療法チーム研修会の開催 [県立医科大学附属病院]	→	外来化学療法の実施件数(人口10万対(1ヶ月分))	<162.4件>(H23)	増加	223.3件(H26)	増加	(10)	
		・緩和ケアチーム研修会の開催 [県立医科大学附属病院]	→	●放射線治療専門医数の増加	6人(H23)	-	13人(H27)	増加	(1)	
				●化学療法専門医数の増加(がん薬物専門医、指導医)	4人(H23)	-	8人(H26)	増加	(1)	
				●がん化学療法看護認定看護師が配置されている拠点病院の割合	60%(H23)	-	100%(H27)	H26から拠点病院の新指針の要件	(1)	
				●がん専門薬剤師又はがん薬物療法認定薬剤師が配置されている拠点病院の割合	40%(H23)	-	60%(H27)	増加	(1)	
		・放射線治療専門従事者育成事業 治療専門医 2名育成 [県立医科大学]	治療専門医 2名育成 [県立医科大学]	→	●放射線治療部門に専任看護師が配置されている拠点病院の割合	-	-	100%(H27)	H26から拠点病院の新指針の要件	(1)
				●ばく露対策マニュアルの策定をしている拠点・支援病院の割合	-	-	50%(H27)	最新値が今後の基準となる	(7)	
				●点滴静注による抗がん剤投与時における閉鎖系回路を使用している拠点・支援病院の割合	-	-	63%(H27)	最新値が今後の基準となる	(7)	
				●点滴静注用抗がん剤における安全キャビネットを使用している拠点・支援病院の割合	-	-	100%(H27)	拠点・支援病院とも対応済	(7)	
				●点滴静注用抗がん剤の薬剤師による調剤(ミキシング)をしている拠点・支援病院の割合	-	-	75%(H27)	最新値が今後の基準となる	(7)	
			●専門医(放射線・がん薬物療法・リハビリテーション科)が配置されている拠点病院の割合	-	-	20%(H27)	最新値が今後の基準となる	(1)		

主な取組	実績			個別施策の指標	参考値または <計画策定時基準値>	計画策定 時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典 No)
	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予定含む)						
専門看護師、認定看護師の育成	・看護師キャリアアップ支援事業 (がん性疼痛看護認定看護師1名 緩和ケア認定看護師1名育成)	・(がん化学療法看護認定看護師2名、 がん放射線療法看護認定看護師1名、 緩和ケア認定看護師1名育成)	・(がん化学療法看護認定看護師 1名、緩和ケア認定看護師1名) ・がん看護に関する研修会の実施 [県立医科大学付属病院]	●県内専門看護師、認定看護師数の増加	38人 (H23度)	—	65人 (H27度)	増加	(1)
放射線療法の病院間での連携推進	・奈良県放射線治療地域連携協議会 の設置(メール会議の開催 3回) [県立医科大学付属病院]	・(メール会議の開催 1回) [県立医科大学付属病院]	・(メール会議の開催 2回) [県立医科大学付属病院]	●放射線療法の県内病院間での連携の 実施件数	—	—	150件 (H25度)	把握できるのは H25度のみ	(11)
化学療法について人材育成、 病院間での連携方策の検討	・拠点・支援病院間 WEBカンファレンステスト実施 [全拠点・支援病院]	・WEB会議定期開催 3回 [全拠点・支援病院] ・診療連携協議会 化学療法分科会 設置	・WEB会議定期開催 5回 [全拠点・支援病院]	●拠点・支援病院間の化学療法Webカン ファレンスの実施回数	3回 (H26度)	—	5回 (H27度)	増加	(11)
手術療法実施体制、病理診断体制、 リハビリテーションの実態把握に必要な 施策の検討	・がん医療部会で方向性の検討	・手術療法の実施体制、リハビリテー ション等の実態把握の検討 ・病理診断体制を全拠点で整備 (拠点新要件で追加) 実態を現況調査で把握	・ならのがん診療に関する拠点、 支援病院調査の実施	●手術実施体制、病理診断体制、リハビリ テーションの実態調査の実施	—	—	実施 (H27度)	実施	(6・7)
				●拠点病院に入院中のがん患者でリハビリ テーションを受けた患者の割合	—	—	—	調査困難	—
医科歯科連携による口腔ケアの推 進	・口腔ケア連携体制について情報把 握	がん患者に対する口腔ケア対策支援 事業 ・歯科医師等ががん医療等の研修会 の開催 1回 ・歯科診療のない医療機関に歯科衛 生士を派遣 3カ所	研修会2回 歯科衛生士派遣 4カ所	●医科歯科連携講習会の開催をした拠点 病院の割合	60% (H26)	—	60% (H27)	横ばい	(1)
小児がん患者やその家族の支援 や長期フォローアップ体制等につ いて検討	・小児がんに関する講演会の実施 (H25.10)	・療養ガイドやがんネットならでの 小児がんに関する情報発信		●近畿ブロック小児がん診療病院連絡会 へ参加	連絡会設立 (H25度)	—	参加 (H27度)	参加	(11)

○目標(主に中間評価の時点で協議会で設定した目標)の進捗状況

目 標	指 標	参考値または <計画策定時基準値>	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典 No)
(1) チーム医療の体制が整備されている	がん診療連携拠点病院におけるチーム医療の整備状況	—	2年以内に評価方法を 検討し、目標値を設定	100% (H27)	H26から拠点病院 の新指針の要件	(1)
	●横断的な医療チームによるがん治療サポート体制がある拠点病院の割合	—	—	100% (H27)	拠点病院で 対応済	(1)
	●化学療法で院内登録レジメン制度を運用している拠点病院の割合	—	—	100% (H27)	H26から拠点病院 の新指針の要件	(1)
	●部位別平均術後退院日数 (日/人)	—	—	乳・7.0日 肺・8.4日 胃・17.9日 肝・20.1日 膵・37.7日 大腸・20.6日 前立腺・10.3日 (H27度)	最新値が今後の 基準となる	(7)
中間						

目 標	指 標	参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典 No)
(2) 各療法の更なる質の向上が できている	中間	●抗がん剤のミキシングを90%薬剤師が担っている拠点病院の割合	100% (H26)	—	100% (H27)	拠点病院で 対応済 (1)
	中間	●化学療法チーム医療の抗がん剤ばく露対策をしているがん診療拠点病院の割合	—	—	75% (H27)	最新値が今後の 基準となる (7)
(3) 地域で医療連携が推進されている	中間	●がん患者入院中に、退院前カンファレンスの開催や地域医療連携室から退院に向けて何らかの連絡があった診療所の割合	—	—	33.7% (H27度)	最新値が今後の 基準となる (5)
	中間	●医科歯科連携講習会の開催をした拠点病院の割合	60% (H26)	—	60% (H27)	横ばい (1)
(4) 地域で医療連携が構築されている	最終	県内のがん診療連携拠点病院の県民治療カバー率 (院内がん登録における県内がん診療連携拠点病院の登録割合)	<72.6%> (H22)	増加	80.2% (H25)	増加 (9)
	最終	●病院から診療所、在宅医療へ移った際、病院での治療方針が診療所、訪問看護ステーションに引き継がれたと回答のあった人の割合	35.5% (国H26度)	—	15.4% (H27度)	国より低い (8) (4)
(5) 安全な医療が提供できている	最終	●拠点病院における手術・化学療法クリティカルパスのバリエーション分析実施状況	—	—	40% (H27)	最新値が今後の 基準となる (1)
	最終	●がん治療で生じた安全問題を検討している拠点病院の割合	—	—	100% (H27)	拠点病院で 対応済 (1)
	最終	●拠点病院における5大がん患者の術後30日以内の死亡率	—	—	—	調査困難 —
(6) 安心で質の高い医療が提供できている	最終	●医師による診療・治療内容に満足していると回答のあった人の割合	79.1% (H25度)	—	80.8% (H27度)	増加 (2) (4)
	最終	●医師との対話に満足していると回答のあった人の割合	75.3% (H25度)	—	76.4% (H27度)	増加 (2) (4)
	最終	●診断や治療方針について、自分の疑問や意見を十分に伝えられたと回答のあった人の割合	71.6% (H25度)	—	69.5% (H27度)	減少 (2) (4)
	最終	5年生存率	—	5年生存率 (H23分)の公表	—	より精度の高い 生存率をH30年 度に公表予定 (H23症例) (13)

<p>がん診療体制の充実 進捗状況概要</p>	<p>○県内の診療体制整備 ・県拠点病院1カ所、拠点病院4カ所の取組へ補助することで県内の診療連携体制を推進、平成26年度には新指針により診療体制を強化した。 ・がん医療の均てん化と集約化、病院間の連携をめざし、支援病院を1カ所から3カ所に増加。 ・さらに新病院の建設や放射線治療センターの整備が進むなど、診療体制の整備は大きく進んだ。 ・指標をみると、拠点病院の新指針の要件にかかる指標のため達成率が100%となっている指標が多く、また県内の拠点病院の県民治療カバー率が増加した。</p> <p>○集学的治療の提供やチーム医療の体制整備 ・がんに携わる人材の専門性の醸成及びチーム医療体制の整備として、拠点病院のがんに携わる医療従事者が国立がん研究センターの専門的な研修会を受講するとともに、県拠点病院が化学療法や緩和ケアのチーム医療の研修会を実施した。</p> <p>○人材育成・適正配置 ・県内の配置をめざし、放射線治療専門従事者を県拠点病院で育成、また拠点病院で配置する、専門看護師、認定看護師を育成した。</p> <p>○病院間での連携 ・県拠点病院が支援病院と連携し、病院間での放射線療法・化学療法にかかるメール会議やWEB会議を実施。</p> <p>○口腔ケアの推進・小児がんの取組検討 ・歯科医師会と連携した歯科衛生士の派遣や講習会などの取組を、口腔外科のある病院を中心に推進。 ・小児がんにかかる情報提供を進めるとともに、近畿圏内に5カ所ある小児がん診療連携病院と県拠点病院が有機的に連携。</p> <p>(がん医療部会からの意見) ・県内のハード整備の推進、人材育成、拠点病院の指定要件の強化や支援病院の指定の追加等積極的な取組により多くの指標が改善しており、県内のどこでも質の高い医療を受けられる体制整備を構築しているところである。 ・今回、県独自でがん治療の実態に関する指標を決め最新データを調査したが、今後は、がん登録等を活用するなど診療実態データの詳細な収集・分析が必要。 ・引き続き、拠点病院等において、がん医療に携わる医療従事者の育成に関わる研修会等を効率的に実施する必要がある。</p>
-----------------------------	--

<p>指標について 気づいた点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別施策の指標では、専門医の増加と業務内容に関することが横並びになっているので整理が必要である。 ・化学療法ばく露マニュアルの有無は、質問の受け取りかたにより50%となっているのではないかと。 ・H26より拠点病院の新指針が示され指定要件となったため、それに伴い、100%となっているものがあり、今後は指標から省いても良いのではないかと。 ・最新値がなく調査困難となっているのは、病院での調査に負担が大きいと考えられるため。 ・放射線療法の件数と化学療法の件数の指標は、「県内における...」の取組の指標となるのではないかと。 ・目標の「化学療法チーム医療のばく露対策...」については、「安全な医療...」に入るのではないかと。 ・診療体制の充実の取組は病院や病院間の取組に絞っているため、地域医療連携の推進や構築の指標はそぐわないのではないかと。 ・「専門医が配置されている拠点病院の割合」は3種類の合計になっているが、別々に表すほうが望ましい。 ・目標達成予定の指標は新たな指標の検討必要。
-------------------------	---

1 がん医療 (1)がん医療の提供
②がん診療情報の提供の推進

■「がん医療の提供」の目指す姿■(第2期計画策定時に設定した目指す姿)
○がん患者が、県内の医療機関で、より質の高いがん医療を受けることができる。
○上記の目標を達成するため、手術療法・放射線療法・化学療法のさらなる充実とそれを実践できる効果的なチーム医療体制整備が進んでいる。

分野別施策進捗状況点検シート
1 がん医療 (1)がん医療の提供
②がん診療情報提供の推進

○目標のために取り組んだこと(個別施策)の進捗状況

●は中間評価の時点で追加した指標

主な取組	実績			個別施策の指標	参考値または <計画策定時基準値>	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No)
	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予定含む)						
医療機関の診療機能、診療実績等の公表	・ワンストップポータルサイト「がんネットなら」の開設 診療機能情報の掲載 国がんの診療実績とのリンク ・「患者必携」「療養ガイド」作成 診療情報掲載	・「療養ガイド」PDFで掲載	・「療養ガイド」作成	患者やその家族の満足度(「治療方針の決定について医療機関からの説明が不十分である」と回答のあった人の割合)	<19.6%> がん医療に関するアンケート調査(H22度)	3年以内に評価方法を決定し目標値を設定	6.3% (H27度)	最新値を基準に目標値を設定予定	(4)
				●ポータルサイト「がんネットなら」の「探す 病院関連団体」のページビュー数	-	-	1,169件 (H27度)	最新値が今後の基準となる	(12)
				●がん患者、家族、県民へ講演会を実施した拠点病院の開催回数	8回 (H24)	-	14回 (H25)	H26拠点病院現況報告から項目除のため調査困難	(1)

○目標(主に中間評価の時点で協議会で設定した目標)の進捗状況

目標	指標	参考値または <計画策定時基準値>	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No)
(1) 患者にとってわかりやすく提示できる体制が整備されている	●がん治療方法についての情報が不十分であると回答のあった人の割合	31.9% (H25度)	-	33.6% (H27度)	増加	(2) (4)
	●セカンドオピニオンの説明を受けたと回答のあった人の割合	32.2% (H25度)	-	25.6% (H27度)	減少	(2) (4)
	●妊孕性温存に関する情報が提供されたと回答のあった人の割合	53.7% (国H26度)	-	59.2% (H27度)	国より高い	(8) (4)
(2) 病院の診療機能について十分な情報提供を受けている	●がん治療方法についての情報が不十分であると回答のあった人の割合(再掲)	31.9% (H25度)	-	33.6% (H27度)	増加	(2) (4)
	●病院の診療体制や治療状況についての情報が不十分であると回答のあった人の割合	25.0% (H25度)	-	24.8% (H27度)	減少	(2) (4)
	●がん治療を決めるまでの間、医師、看護師、他の医療スタッフが治療について、ほしいと思った情報を提供したと回答のあった人の割合	82.8% (国H26度)	-	87.8% (H27度)	国より高い	(8) (4)
	●日常生活を送るのに必要な情報が不十分であると回答のあった人の割合	7.7% (国H26度)	-	32.7% (H27度)	国より高い	(8) (4)

がん診療情報提供の推進 進捗状況概要	<p>○診療情報提供</p> <p>・医療機関の診療に関する情報については、療養ガイド等の冊子の作成・配布をはじめ、H25年度に開設したがん情報のワンストップポータルサイト「がんネットなら」で情報提供。その結果としては、治療に関する病院・関連団体検索のページビュー数の最新値が1,169件であった。</p> <p>・指標をみると、セカンドオピニオン等数値の悪いものはあるものの、治療等に関する情報は概ね満足度が高くでている。</p> <p>(がん医療部会からの意見)</p> <p>・今後、印刷物の配布はPDFの提供にとってかわることを考えると、インターネットでの情報提供は重要であるが情報に関する患者満足度は高くても、ページビュー数は少ない。</p> <p>・今後は引き続き「がんネットなら」の機会を捉えた周知とともに、患者に勤める側の医療従事者への周知が重要。</p>
-----------------------	--

指標について 気づいた点	<p>・個別施策に満足度の指標はそぐわないのではないかと。</p> <p>・目標の「セカンドオピニオン...」は診療機能のことであり、目標の「病院の診療機能...」に該当するのではないかと。</p> <p>・目標の「日常生活を送る...」は、「病院の診療機能...」に関するのではないかと、該当しない。</p>
-----------------	---